

# なんケア通信

第25回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和2年2月7日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：52名(介護事業所関係者 27名、地域包括支援センター 9名、福祉用具事業所 3名、薬局 2名、医療機関関係者 11名)



## 演 題

### 高齢者の薬について

～ 今話題の『ポリファーマシー』を知ろう ～

御野場病院 薬局長 高橋 大 様

### 在宅での薬の管理

～ 調剤薬局で関わった困難事例・管理成功事例の紹介  
介護する側の薬管理の注意点 ～

小町堂薬局 管理薬剤師 佐藤 晶子 様

今回のテーマは「在宅ケアに役立つ！薬の知識」です。高齢者は薬の種類が多くなりがちで、副作用や残薬など様々な問題を抱えている方が多いようです。今回のテーマに興味を持っていただいた地域の医療・介護に携わる52名の方がご参加くださいました。

初めに、御野場病院薬局長の高橋大氏より「高齢者の薬について～今話題の『ポリファーマシー』を知ろう～」についてご講演いただきました。多剤併用の中で害をなす「ポリファーマシー」は、多くの薬を使用することにより、有害な反応をおこすリスクが増加すること、服薬管理が難しくなることが問題となっているとのことでした。ポリファーマシーが起きやすい事例として、複数の医療機関・診療科の受診や処方カスケードがあることを教えてもらいました。解決するためには、かかりつけ薬局を活用して一元管理を行うこと、多職種で協力して情報交換・情報共有を行うことが大切であることを理解しました。

続いて、小町堂薬局管理薬剤師 佐藤晶子氏より「在宅での薬の管理～調剤薬局で関わった困難事例・管理成功事例の紹介、介護する側の薬管理の注意点～」についてご講演いただきました。小町堂薬局で実際に取り組んだ5つの事例を紹介していただきましたが、高齢世帯での困難事例が多いことを実感しました。経腸栄養剤など持ち運びが大変な場合は薬局で配達援助を、また、複数の医療機関から処方がある場合は、自宅に訪問した際にホチキスで留めて日付を記入したりと、医療機関では行き届かない部分に対してきめ細かく対応していただいていることがわかりました。講義後に参加された皆様からも「事例を通して現状を知ることができた。」「地域の薬局が工夫していることを知ることができた。」などのご感想をいただきました。

本日の講演会では、超高齢化社会において課題のひとつである「高齢者の薬」について、学びを深めることができました。薬の管理は、高齢者の健康維持に重要な要素であり、多職種で目を配りながら支援していく必要があると、改めて認識する機会となりました。

今後も、地域包括ケアシステムを円滑に運営していけるよう、皆様と一緒に考えて参りたいと思います。引き続きご指導ご支援いただきますようお願いいたします。

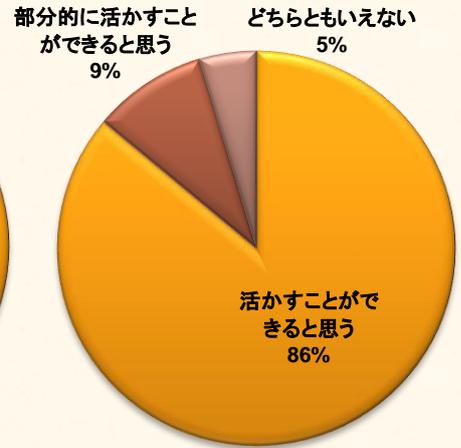
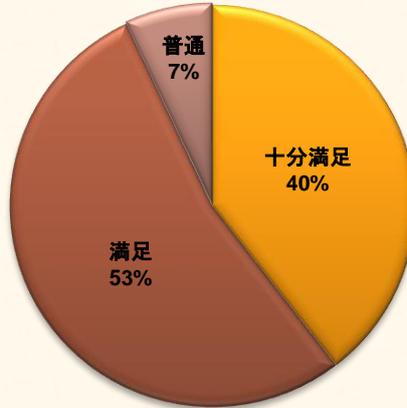
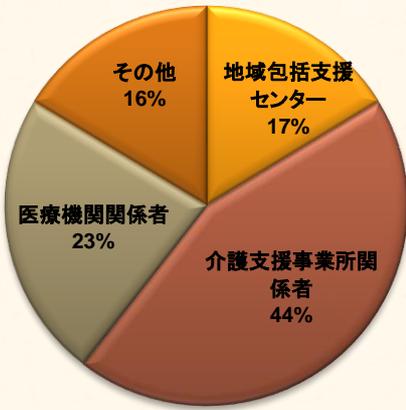
アンケートの  
集計結果



所属

なんケアの会に参加して、いかがでしたか？

今後、地域での活動に活かすことができそうですか？



回収率: 82.7% (アンケート配布: 52 名、回収: 43 名)



会場の様子  
と  
皆様からのご意見・ご感想



薬剤師からの視点について学ぶことができ、大変勉強になりました。薬局でどんな対応をしているのか、初めて知ることがたくさんありました。

医療機関関係者

地域の薬局が工夫していることを知ることができ、ためになりました。

介護支援事業所関係者

事例を通して現状を知ることができてよかったと思いました。

福祉用具貸与事業所

